

『経営分析研究』カンファレンス論文査読規程

2022年12月17日制定

(『経営分析研究』第37号から適用)

(編集委員会)

『経営分析研究』編集委員会(以下、「委員会」と記す)は、編集委員長(以下、「委員長」と記す)、副編集委員長(以下、「副委員長」と記す)、編集委員(以下、「委員」と記す)で構成する。編集委員会執行部(以下、「執行部」と記す)は、委員長および副委員長から構成される。執行部および委員会は以下のプロセスにしたがって査読手続を行う。

(カンファレンス論文の受付)

委員長は、経営分析カンファレンス・ワークショップの報告者によって、報告日から起算して3カ月後に相当する月の末日までに『経営分析研究』に投稿された研究論文を、カンファレンス論文として受け付ける。

(カンファレンス論文審査委員会)

カンファレンス論文審査委員会(以下、「審査委員会」と記す)は、経営分析カンファレンス・ワークショップにおける報告の討論者(以下、「討論者」と記す)および執行部から構成される。

(予備審査)

審査委員会は、論文の予備審査を行う。予備審査では、本審査に進めるか、不受理(Desk Reject)とするかを判定する。

(レフェリーの決定)

審査委員会は、本審査にあたり、委員会の中からレフェリーを1名選定する。ただし、審査委員会は、委員会の承認を条件として、委員会以外からレフェリーを選任することができる。

(査読プロセスにおける委員長の役割)

委員長は、カンファレンス論文ならびに査読書類のレフェリーへの送付、判定結果の投稿者への伝達、投稿者が修正して再投稿した原稿(以下、「修正稿」と記す)の確認、修正稿のレフェリーへの送付等を行う。

(掲載可否の判定手続)

カンファレンス論文は、以下のプロセスを経て、掲載の可否が判定される。

[第1次審査]

- ① レフェリーによる第1ラウンドの判定結果がAまたはBならば、第2次審査に移行し、判定結果がEならば掲載不可とする。
- ② レフェリーによる第1ラウンドの判定結果がCまたはDならば、第2ラウンドに移行する。
- ③ レフェリーによる第2ラウンドの判定結果がAまたはBならば、第2次審査へ移行し、第2ラウンドの判定結果がEならば掲載不可とする。

[第2次審査]

レフェリーによる第1次審査の結果を受領したのちに、審査委員会は審査報告書を作成する。審査報告書における判定結果がAまたはBならば掲載可とし、Eならば掲載不可とする。

(判定基準)

査読手続における判定基準は、以下の通りとする。

① 第1ラウンドの判定基準

A：掲載可 (Accept)

B：条件付掲載可：レフェリーによる指摘事項に関する投稿者による対応の確認を編集委員会に一任する (Conditional Accept)

C：小幅な修正および再投稿 (Revise and Resubmit — Minor Revision—)

D：大幅な修正および再投稿 (Revise and Resubmit — Major Revision—)

E：掲載不可 (Reject)

② 第2ラウンドの判定基準

A：掲載可 (Accept)

B：条件付掲載可：レフェリーによる指摘事項に関する投稿者による対応の確認を編集委員会に一任する (Conditional Accept)

E：掲載不可 (Reject)

③ 第2次審査の判定基準

A：掲載可 (Accept)

B：条件付掲載可：レフェリーによる指摘事項に関する投稿者による対応の確認を編集委員会に一任する (Conditional Accept)

E：掲載不可 (Reject)

(本規程の改正)

本規程は、必要に応じて、編集委員会の合議により改正することができる。